

明倫短期大学学会報告

による、性格の平均・普通型において高い成績を示した。しかし、これまでの研究より、識別試験を繰り返すことによって、指頭感覚の向上が見られたことから、今後は指頭感覚訓練を反復実施し、探針の操作技術を向上させることが必要と思われる。また、反復訓練において集中力が続かないとの感想が多いことから、いかにして集中力を持続させるかが今後の課題である。

明倫短期大学研究チームが試作した 歯科訪問診療ユニット

野村章子 (歯科技工士学科)

口腔機能の向上は「歯科治療」「歯科保健指導」「専門的口腔清掃」「摂食・嚥下リハビリテーション」からなる。その中で、在宅や介護保険施設で歯科治療と口腔ケアを必要とする要介護者に応えるために、明倫短期大学研究チームは新潟大学および株式会社モリタ東京製作所とともに連携し、歯科訪問診療用ユニットを試作した。その仕様は、歯科材料や器具を搭載できるオールインワンで移動式、違和感を与えないデザイン、歯の切削に必要な機器の装備、簡単な技工作業スペースの確保、収納用の棚が組み込まれている、電源コードの一本化、吸引や注水のメンテナンスが簡単などであった。本試作機の仕様に対する歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士計17名にアンケートを行ったところ、移動性、収納性、切削・吸引機能、技工作業性、設置や診療準備の面で概ね良好な評価を得た。現在、介護施設へ搬送し、要介護者の義歯、充填、根管治療などの歯科治療や口腔ケア等に活用されている。

第33回 (通算第116回) : 2008年6月26日 (木)

(座長: 中澤孝敏)

部分床義歯基礎実習の進め方

佐々木 聡 (歯科技工士学科)

部分床基礎実習の教育効果を向上させるために平成15年から各実習のステップ模型、資料の作成と改善を行ってきた。平成17年度から課題ごとにスライドを用いて全体の流れ、注意点の説明する方法も取り入れた結果、全体の流れが理解しやすい、説明のメモがとりやすい、実習室のモニタより見やすいなどの意見が得られた。また、写真より動画がよい、デモンストレーションの方がわかりやすいとの意見があった。学生にどの

技工操作の動画・デモンストレーションが見たいかアンケート調査を行い、学生が希望した技工操作の動画をスライドに追加した。翌年の学生に動画付のスライドで実習説明を行い、この実習説明についてアンケート調査を行った結果、動画があることで十分わかりやすい、スライドで説明されるとすごく解りやすかった、作業の流れを見ることができたので実習で作業がスムーズにいったなどの意見が得られた。これから多様化する学生教育にはさまざまな教材が必要になることを報告した。

歯科技工学生の英語

廣瀬浩二 (歯科衛生士学科)

歯科技工士学科の学生に歯科医療用語を英語で指導する際に、どの範囲の用語を選択したらよいのか、その客観的な指標に乏しいのが現状であろう。そこで、教材作成に少しでも科学的なアプローチを導入しようとした。それが、コーパス言語学のアプローチである。

現在、歯科技工に限定したコーパスは存在しない。そこで、新たに作成することにした。例えば、歯科衛生士に関しては、米国、英国、カナダなどに歯科衛生士協会のホームページがあり、そこにはかなりのデータが蓄積されており、コーパスの作成に役立つ。しかし、歯科技工に関しては、歯科衛生士に相当するようなホームページに到達できなかった。そのため、主にアメリカの歯科技工関連のホームページから70の英文テキストを収集し、データベース化した。コンコーダンスーを使用し、高頻度出現語の中から、歯科技工関連の用語を選択し配列した。単語総数は22087語、文総数は1128文であった。更に、例文を添え、教材化を検討している。

第34回 (通算第117回) : 2008年7月24日 (木)

(座長: 栗崎由貴子)

本学実習生の歯科予防処置実習 自己評価の分析

渡辺美幸 (歯科衛生士学科)

本学附属歯科診療所において実施している歯科予防処置実習について自己評価を行っているが、今回、その結果から現状を把握するとともに問題点の抽出を行い、歯科予防処置実習の見直しを行ったので報告する。

対象は、平成19年10月1日から平成20年3月27日ま